平成 27 年度（2015 年度）第 5 回 吹田市健康づくり推進懇談会 議事録

- 1 開催日時 平成 28 年（2016 年）1 月 27 日（水）午後 2 時～3 時 30 分
- 2 開催場所 吹田市立保健センター 1 階 社会適応訓練室
- 3 出席委員 伊藤 美樹子委員、幸林 友男委員、御前 治委員、三木 秀治委員、
立木 靖子委員、小川 章正委員、長谷川 美津代委員、権野 隆委員、
山路 雅代委員、岩元 喜代子委員、木沢 多永子委員、山口 淳委員
- 4 欠席委員 栗田 智代委員、幸 浩司委員
- 5 市出席者 米丸 聡特命統括監
安井 修保健施策担当理事、石田 就平健康医療担当理事
＜保健センター＞
岸 敏子参事、北川 幸子参事、大川 雅博参事、長井 浩参事、
山野 由理子主幹、濱本 利美主幹、安宅 千枝主幹、山谷 竜也主査、
村澤 亮平主査、齊藤 郁子主査、東 淳子主査、北野 順子主査、
岡野 沙和主任、上田 雅子主任、名越 常子係員
- 6 案件 （1）吹田市健康づくり推進懇談会（第 4 回）での主な御意見
（2）パブリックコメントの実施結果について
（3）健康すいた 21（第 2 次）の計画案
（4）その他
- 7 議事の概要 別紙のとおり

案件 1 吹田市健康づくり推進懇談会（第 4 回）での主な意見

委員長： 前回会議では主に分野別目標値について意見をいただき、計画素案をとりまとめました。その後パブリックコメントを実施しましたので、今回はその結果報告と計画案について意見をいただきたいと思います。

では案件 1 吹田市健康づくり推進懇談会（第 4 回）での主な意見について事務局から説明をお願いします。

事務局： <資料 1 に基づき説明>

委員長： 説明のあった内容について、何か御意見や御質問はありますか。

特にないようであれば、案件 2 パブリックコメントの実施結果について、事務局から説明をお願いします。

案件 2 パブリックコメントの実施結果について

事務局： <資料 2 に基づき説明>

委員： 食事バランスガイドについてですが、これはもともと栄養や食事バランスについて意識していなかった人のために分かりやすく大雑把につくられたものです。そのため、パブリックコメントに意見をいただいた人は、知識のある人の視点での意見ではないかと感じました。

食事バランスガイドは栄養等に関して知識のない人には料理で示してあるため良いものだと思いますので、知識のレベルによって活用していけばいいのではないのでしょうか。

委員長： 知識の浅い人には有効な教材であり、啓発していく入口には使えるものなので、市の考え方にもそうした説明を入れてみてはどうでしょうか。

委員： パブコメは意見者にどのように回答するのですか。

事務局： 食事バランスガイドについては、市の考え方に追加しておきたいと思います。

回答については、3 月中に計画策定も行うので、パブリックコメントの結果についても同時にホームページに公表したいと思います。

委員： 8 件もパブリックコメントが返ってきているのは関心度が高い案件だと思います。

す。市民がこれだけ関心をもっているという点は押えておきたいところです。

委員長： ほかに意見がなければ、次に案件 3 健康すいた 21（第 2 次）の計画案について、事務局から説明をお願いします。

案件 3 健康すいた 21（第 2 次）の計画案

事務局： <資料 3-1 及び資料 3-2 に基づき説明>

委員： コラムなどもあり非常に読みやすく、関連法案などの掲載もありすばらしい資料だと思います。

一点、75 ページの定性的とありますがどういう意味でしょうか。定量的などというのは、字のごとくで分かるのですが。

事務局： 定性的とは、定量的の反対語で用いており、数値目標を設定しづらい場合など、文言として表現し目標を設定するというものです。減少や増加といった言葉で目標設定している箇所がいくつかあるためです。

委員長： 数で表せないものを定性的に評価することになりますね。

委員： ざっと目を通したところ、指標の数値が変わっている気がしますが、修正点として説明がありませんでしたが、何か意味はあるのですか。

事務局： 前回からは特に修正していませんが、お気づきの点があれば具体的な箇所をお願いできますか。

委員： 91 ページ、①定期的に運動している人の割合の女性の数値は、以前は 32.7 パーセントではなかったでしょうか。また、97 ページの睡眠時間は、男女別ではなく年代別になっていませんか。

事務局： 前回資料が今手元にないので不確かですが、睡眠時間については、庁内会議において意見があり、男女別にしているものとそうでないものの理由が説明できるようにすべきだということから、検討の結果、男女別での差異があるもの、また、それぞれ前計画からの経過を追っていくべきであるものについては、男女別で掲載し、それ以外は統一しました。

その他については、算出方法や考え方は変えていないので、計算ミス等による数値の修正だと思われます。

委員： 122 ページに吹田くわいについて書かれていますが、片山公園には 10 年以上植えてあり、シーズンであればいつでも見ることができるということを加えていただければと思います。

事務局： 修正したいと思います。

委員長： 片山公園だけの追加でよいですか。

委員： 多く植えてあるのが片山公園で、各小学校などでも栽培していますが小学校は自由に入出入りできませんので、片山公園がよいと思います。

委員： 吹田くわいの保存会があるので連絡先も載せてはどうでしょう。そのほかにも栄養士会なども出てきますが、興味を抱いた際に問い合わせ先が分からないのではないのでしょうか。

51 ページでは、ライフステージ別にみた食育で、妊娠・乳幼児期について乳幼児の基本的な食事マナーの推進とありますが、乳幼児期にマナーの推進が必要なのか疑問です。食事習慣や食事の楽しさは重要ですが、この時期にマナーまで必要でしょうか。

また、青年期の食に対するさまざまな意識向上の取組が必要とありますが、どういった意識向上なのか具体的にしてはどうでしょうか。健康管理のためになどの言葉が必要ではないですか。

同様に、中年期における食育への関心の向上というのも大雑把すぎると思いました。子育てもあり食育一番関わる年代だとは思いますが、中年期の食育のように見えて分かりづらいと思います。成人として次世代の食育に関心を持つ等ではどうでしょうか。

高年期では、食事の準備ができる割合の向上とありますが、年齢や体力等身体の機能に応じた食事の準備とすべきではないでしょうか。

127 ページでは、日本の食生活を次世代に伝えることを意識し、会話をしながら楽しく食べる機会を持ちますとありますが、いまさらこの時期にすべきことでしょうか。高齢になると辛いものを食べてしまうなど、日本の食生活は必ずしも次世代に伝える良きものとも言えませんし、日本では会話をしながら食事するのは行儀の悪い行為であり、矛盾した書き方ではないのでしょうか。日本の食生活の良い伝統を伝える等の表現がいいのではないのでしょうか。

分野 7 については、自分の体の状態を知りますとありますが、体の状態を知るだけでいいのでしょうか。自分の身体の管理をすることまで言った方がいいのではないのでしょうか。

目標やどうあるべきという部分の表現について統一性がなかったように思います。例えば食生活、食習慣、食事マナーと表現が随分変わっており一貫性がないと思います。

また、食育についてはうたわれていますが、今、子どもの貧困が大きな問題になっていますがこれに言及がありません。食育に至る前の段階で十分に食事をできないでいる状態です。アンケートにはありませんが、吹田の現状がどうなのか、子どもの貧困に対する施策、子ども食堂等の政府の新しい取組に対する記載もないと思います。

事務局： 吹田くわいの保存会の連絡先掲載については、団体の了承を確認してから検討したいと思います。

御指摘の文言の統一等も精査して修正したいと思います。

また、子どもの貧困については、なかなか健康づくりの計画のなかでは書きづらい部分ですが、健康格差の解消といった大きなものには触れていますので、具体的には、実際に事業に取り組むなかで検討していくことになると思います。

委員： 参考資料に塩分の摂取状況がありますが、塩分という表現は最近使われず食塩と表現されます。正式な栄養成分としての表現は食塩で、塩分はさらにカリウムやマグネシウム等が加わってきます。厚労省でも塩分といわず食塩になっています。

事務局： 30 ページについては、昨年実施したアンケート結果ですので、整合性を検討し修正できそうであれば対応したいと思います。

今後の表現については食塩としていきたいと思います。

委員： 19 から 24 ページの国保についてですが、吹田市の国保は半分もないのではないのでしょうか。あくまでもこれは国保加入者だけのデータによるものだという記載がなければ、吹田市全体だと思われてしまいます。国保加入者と一般企業で加入している人では、収入の差や食生活の違いがあると思われれます。

委員： 19 ページに関連して、なぜこんなに国保加入者は減っているのでしょうか。

委員： 後期高齢者が入っていないので、合わせれば妥当な数字になると思います。

委員長： 今のような説明がなければ市民も減っていると勘違いするのではないかと思います。注釈等をお願いします。

事務局： 文言を検討したいと思います。

委員： 41 ページのグラフで、アンケートでは仕上げみがきがあったと思いますがどうでしょう。アンケート結果に対する何等かの回答が必要ではないでしょうか。また、せっかく調べた調査データは、育児教室等で活かす予定はあるのでしょうか。

事務局： 活用については活かしていける部分がないか検討していきたいと考えております。

委員： 95 ページに、安否確認をかねて配食サービスを行うとありますが、表には出てきていないようですが。

事務局： 表は市の取り組みのみですので、社会福祉協議会が行っているものについては、文章内でふれています。

委員： 80 ページでは掲載されているようですが。

事務局： 分野1は市の取り組みで行っているもので、95 ページの地域・団体の取り組みによる配食サービスは同名の事業ですが別の取り組みとなっています。

委員長： 書き分け可能であれば表現を変えたほうが分かりやすいでしょう。

委員： 161 ページに評価指標一覧がありますが、実際には抽出アンケートから国保のような全数調査に近いものなどがあり、参考資料には調査元について記載した方がいいでしょう。

事務局： 161 ページについては、例えば栄養食生活の下にある米印にある但し書きで健診の問診結果であることを記載しており、特定の母数だと分かるようにしています。また、米印の④については、アンケート結果ですが、全数調査かどうかは第2章の25 ページにどのように調査を行ったか記載しているので、そこ把握できると思います。

委員長： 米印の④でも25 ページを参照できるという旨を記載してはどうでしょうか。

事務局： 検討したいと思います。

委員長： 細部まで多くの意見をいただけたと思います。ほかに御意見はないでしょうか。なければ、次にその他の案件に移りたいと思います。

案件4 その他

委員長： その他の案件として、事務局から何かありますか。

事務局： 本会議の名称について、事務局から御報告したいことがあります。

昨年4月に、健康すいた21と食育推進計画、歯と口腔の健康づくり推進計画の3計画を一体的に策定、推進する会議として、こちらの吹田市健康づくり推進懇談会、庁内部長級が参画する吹田市健康づくり推進庁内検討会議及び作業部会を設置いたしました。

会議の名称につきましては、3計画の名称を用いると長くなるため、健康づくり推進という言葉を用いてきましたが、このたび、3計画の総称として健康すいた21を用いることとなりましたので、これを機に、来年度から、会議の名称にも健康すいた21を用いて、外部委員の会議は、(仮称)健康すいた21推進懇談会、庁内部長級の会議を(仮称)健康すいた21推進庁内会議、作業部会を(仮称)健康すいた21推進庁内会議作業部会に改めたいと考えています。

委員長： これについて、何か御意見等ありますでしょうか。ほかに、事務局から何かありますか。

事務局： 今後の日程について、説明いたします。

本日いただきました御意見等を基に最終的に計画をとりまとめまして、2月に開催する庁内の政策会議にかけてまいります。

その後、年度内に冊子を印刷し、委員の皆様へに配付させていただきたいと考えています。また、計画の概要版についても作成する予定としていますので、こちらも配付させていただきます。

なお、来年度からは計画の進捗管理となり、年度内2回程度の開催を予定しております。来年度、第1目の会議につきましては、6月から7月頃で検討しますので、日程が決まりしだい、改めて御連絡させていただきます。

本年度の本懇談会の開催は、本日で最終となりますので、最後に委員長からごあいさつをお願いいたします。

委員長： 全5回の会議で多くの勉強にもなり、各団体と市の福祉部署には多くの資料作成、会議の意見等にも検討していただけるプロセスに手ごたえを感じながら積み重ねてこれたと思います。また、3計画の統合や機構改革を控えた多忙なかの

作業で感謝いたします。

計画は来年度からのスタートとなり、みなさんの御支援、市の活躍、市民の方々の協力により計画を達成していかなければなりません。5年後には多くの目標を達成できるよう、みなさんにも御支援をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、本日の会議はこれで終了いたします。